牛も人も健康で、笑顔あふれる酪農郷

～多様でゆとりある農家経営の実現～

中西部支所所地域係　鶴居村（中久著呂・中雪裡地域）

◇　活動のねらい

平成28年から鶴居村の４戸を対象に自給飼料の品質と乳牛の飼養管理の改善に取り組んだ。普及センターは対象農家と話し合い、改善計画「個別ヘルシープラン」を作成し、取り組みを支援した。その中で自給飼料の品質改善では、草地更新等の実施による増収を、乳牛の飼養管理改善では、子牛の死亡率低減や周産期の飼養管理改善による疾病の減少を目標として、農業所得の増加を目指した。

１　活動の経過

聞き取った課題から「個別ヘルシープラン」を計画

農場	個別ヘルシープラン
A	粗飼料の品質向上 基礎知識の向上
B	作業効率の向上 放牧技術の向上
C	規模拡大後の 経営安定
D	ほ育牛の環境改善 生乳の高品質化 粗飼料の確保

農家へ聞き取り

＋

関係機関と協議

関係機関と連携し、植生改善を実践、波及へ

図１　植生改善に向けた支援体制「植生改善プロジェクト」

自給飼料の安定確保

植生調査結果をほ場図に反映させて、草地更新を推進した。また、エゾシカ食害による被害率を示し、電気柵の設置を提案し、食害対策効果も検証した。

①草地更新の必要性を提案

②エゾシカ食害対策の電気柵を推進

乳牛の飼養管理改善

子牛の死亡率が問題となっていたＤ農場で子牛の飼養管理改善の提案を行った。また、４戸で周産期の給与飼料や牛舎環境の改善を、飼料会社や獣医師と連携し推進した。

①子牛の死亡率低減

②周産期の飼養管理改善

2　活動の成果

自給飼料の安定確保

深耕アッパーロータリーの利用により、自力更新面積は拡大した。また、エゾシカ食害対策の電気牧柵の効果も見られ、更新草地での被害低減が図られたことで、４戸の年間収量は増収した。

図2　4戸の草地更新面積の推移　図3　D農場のほ場別年間乾物収量　図4　4戸の年間乾物収量の推移

乳牛の飼養管理改善

Ｄ農場では従事者間で子牛の管理情報を共有したことで、子牛の死亡率減少に繋がった。また４戸で、分娩前後の飼料内容や給餌方法の改善、牛舎清掃回数の増加等が実践され、疾病率は減少した。

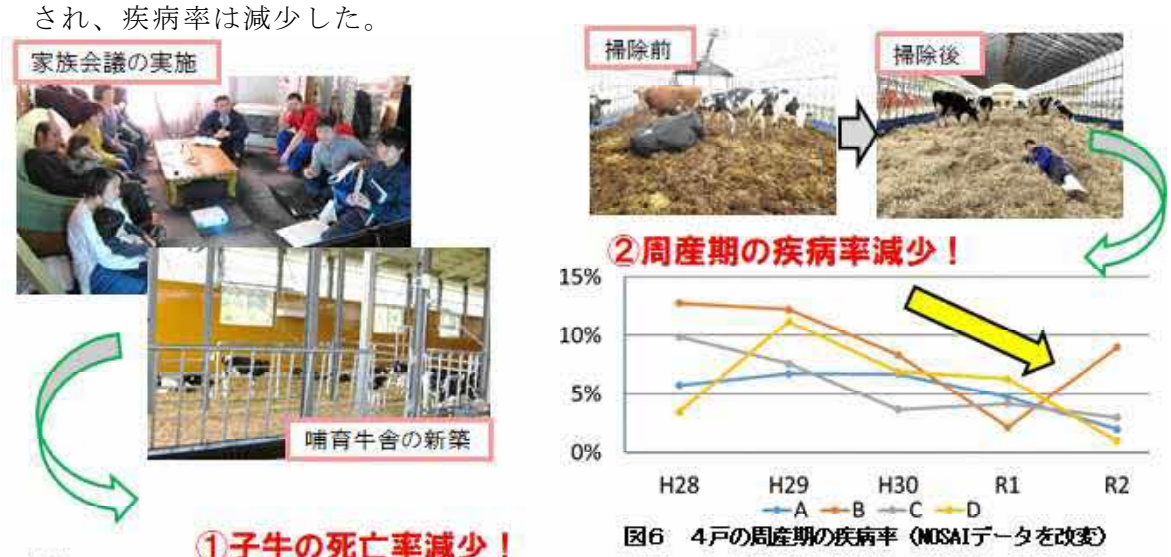

図5　D農場の子牛死亡率の推移　図6　4戸の周産期の疾病率（MOSAIデータを改変）

【農業所得】

５年間の取り組みによって、４戸平均の農業所得は増加した。

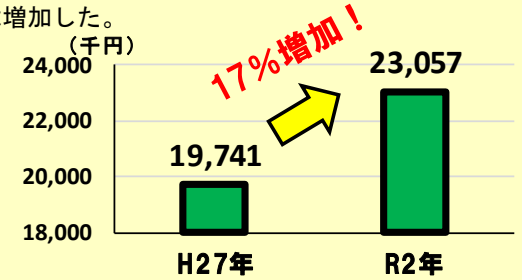

図７　４戸平均の農業所得の推移

3　今後の活動

自給飼料の品質改善・乳牛の飼養管理改善の重点的な支援については本年で終了する。次年度は白糠町で生乳安定生産のための飼養管理技術導入と草地植生の改善を支援する。